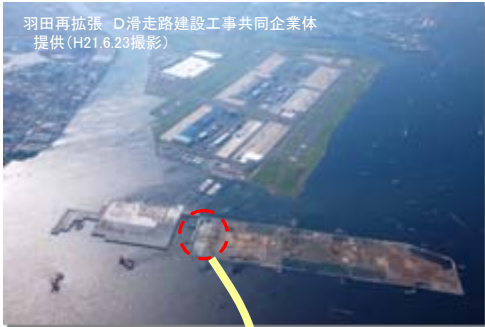




埋立部	栈橋部
接続部	連誘部
環境	その他
工種名：軽量混合処理土工	



本年5月から施工を開始している軽量混合処理土がやっと水中から顔を出しました。写真①が打設範囲、写真②が現在の現場状況（7.16撮影）です。この位置に約87万m³を打設します。

軽量混合処理土は別名「Super Geo Material (SGM 軽量土)」といえます。直訳すると「超地盤材料」です。一見すると・・・？ですが、軽量と付く名のとおり、山砂やセメント、以前紹介した管中混合固化処理土よりも比重が軽いため土圧の低減を図りたい箇所への適応が可能など、いくつかのメリットがあります。今回はこのSGMについて簡単に紹介します。



～ちょっと参考～

軽量混合処理土を英語にすると何故SGM?

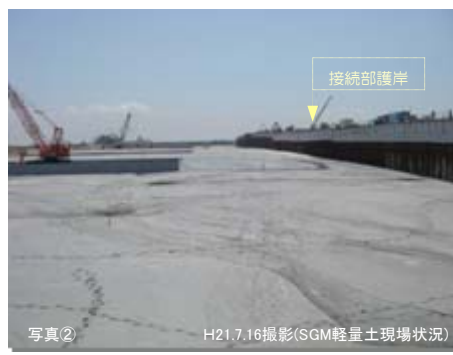
軽量って付いてるんだからLight-weight・・・Soilでは？と思いませんか。SGMの技術書には以下のように書かれています。「軽量性（もしくは重量性）、安全性（無害性）、リサイクル性などの付加価値を有する港湾・空港での新地盤材料の総称のこと」だからSGMなんですな

■「港湾・空港における軽量混合処理土工法技術マニュアル」発行（財）沿岸開発技術研究センターより

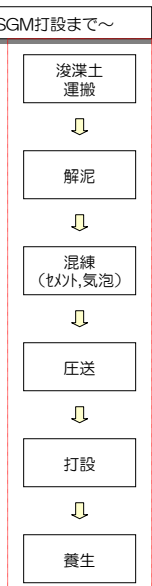


軽量混合処理土 (SGM) ってどういったもの？

簡単にいうと、土+セメント+水+気泡を混合した改良土です。以前紹介した管中混合固化処理土と似ていますが、SGMには気泡が入ります。この気泡が軽量化の役割を果たすことになります。



写真①のA地点から撮影した最近の状況です。起泡材が白色系の色をしているため、全体的に白っぽく見えると思います。（スケートリンク場...?）



右の写真は原材料となる浚渫土を解泥している状況です。適度に調泥してから他の材料と混合します。（調泥の目安は「とろとろ」）

なお、浚渫土は、東京港内の工事で発生したものを有効活用しています。



▼D滑走路展望台には、SGM、管中混合固化処理土、コンクリート、山砂の比重の違いを確認できるように供試体を展示しています。是非、一度足を運んでみて下さい！

▼展望台へのアクセス方法は[こちら](#)